

地域教育情報誌

チュウホク ドット コム
中北.com

中北教育事務所
教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046



中北の地域社会（**com**munity）の心の交流（**com**munication）をめざします

Pickup!

みんなで育む

中北地区地域教育推進連絡協議会 研修会

6月25日、敷島総合文化会館において開催された第1回中北地区 地域教育推進連絡協議会には、教員や保育士、保護者、自治体職員など、約100名の多様な立場の方々が集まりました。それぞれの立場からともに考え、地域の子どもたちを社会の担い手として「みんなで育む」という思いを共有する場となりました。

意思あるところに道は開ける

会の中では、甲陵高校2年生の相山心音さんが、スピーチを行いました。相山さんは昨年度、「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」において法務大臣賞を受賞しています。この日も「あなたが国連の総会議場で自由にスピーチができるとしたら、何を訴えるか」というテーマのもと、受賞スピーチを堂々と披露しました。

内容は、ホームステイ先のオーストラリアで感じた人種差別の問題についてです。「差別の問題を自分事として学べる機会を」と訴える相山さん。まっすぐな思いが、参加者の心に響きました。



「性」教育は「生」教育

竜王レディースクリニックの森澤 宏行 院長は、性教育について講演されました。学校への出前授業にも精力的に取り組んでいる森澤先生は、授業の中で使用している資料を紹介しながら、子どもたちにどのような内容を伝えているのかをお話ししてくださいました。情報があふれる社会の中で、子どもたちが安全で健康に、そして自分を大切にして生きていくために知ってほしい知識や考え方について理解を深めることができました。

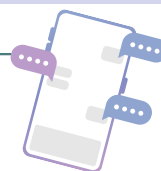
参加者のアンケートからは、「性教育は生き方にも関わるまさに人権教育だ」「中高生にぜひ聞いてもらいたい内容である」「幼児期の子どもにも自分たちを大切にするのを伝えていきたい」といった声が多く寄せられ、保育園等や学校、家庭での関わり方を見直す契機となりました。

✓ 中北地区地域教育推進連絡協議会とは・・・

中北管内7つの市町の教育行政、教育施設、保護者、地域住民等の代表で構成される組織です。学校・家庭・地域の連携促進、地域の教育力の向上を目的として活動しています。

Pickup!

みんなで考える スマホとSNSとのつきあい方 ～ 南アルプス市立 甲西中学校の甲西プライドサミット ～



身近な経験から広がる気づき

パネルディスカッションでは、「長時間の利用で学習への影響が心配」「見知らぬ人とつながる危険がある」など、スマートフォンの利用に対する不安が挙げられました。また、校内アンケートの結果も紹介され、少数ながら「画像を投稿したことがある」といった実態も共有されました。

続く班別協議では、「18歳までは利用時間に一定の制限が必要ではないか」など、具体的な行動について意見が出されました。また、保護者からは「困ったときには気軽に相談してほしい」との声もあり、子どもたちを温かく見守る思いが伝えられました。

警察の立場からは、闇バイトやSNS上での誹謗中傷といった事例が紹介されました。こうした問題は身近にも起こりうるものであるからこそ、ルールを知り、守ることが大切であるというお話があり、より現実的な視点で考える機会となりました。

6月26日、甲西中学校（内田 勝久 校長）で「甲西プライドサミット」が開催されました。スマートフォンやSNSの利用について考える取り組みとして始められ、今年で3年目を迎えました。

この日は、山梨県警の職員をはじめ、生徒、保護者、教員がパネリストとして参加し、それぞれの立場から思いや考えを語り合いました。パネルディスカッションに加え、グループで話し合い、全体で共有する「全員参加型」で進められることが、このサミットの特徴です。生徒一人ひとりが自分のこととして問題を捉え、日頃の行動を見つめ直すことを目的としています。



当事者として考える一歩

スマートフォンやSNSがますます身近なものとなっている今、周囲の声に耳を傾けながら、自身の利用のあり方を見直すことが求められます。今回の取り組みで得られた気づきは、正しい知識と想像力をもって、より良く活用しようとする意識の広がりにつながるのではないのでしょうか。

Pickup!

わくわく 町たんけん

～ 蕪崎市立 蕪崎小学校 2年生の生活科 ～



6月18日、蕪崎小学校（小沢 弘 校長）の2年生が、元気いっぱいに蕪崎の町へ出かけました。

自分たちの住む地域の施設を知り、そこで働く人々の工夫や努力に触れることを目的とした、生活科の学習の一環です。子どもたちは、この日を心待ちにしてきました。当日は5つの班に分かれ、先生とともに町へ出発。通りで出会う地域の方々には、子どもたちの様子を温かく見守っていました。子どもたちは元気にあいさつを交わしながら、安全に気を配り、互いに声をかけあって進みます。

学びいっぱいのインタビュー

夏を前に、お盆の提灯が並ぶ上田商店では、店長が笑顔で子どもたちを迎えてくれました。子どもたちは「どんなものがあるのかな」と興味津々に店内を見て回ります。

いよいよ質問タイム。進行も子どもたちが担い、あらかじめ考えてきた質問を一人ひとりが順に伝えていきます。「これは何ですか」と位牌について尋ねる場面もあり、暮らしと結びついた学びが広がっていきましました。町の雑貨店ならではの役割や良さに触れる時間となりました。



郵便局では、普段は入ることのできない奥のスペースに案内してもらい、はがきにスタンプを押す機械を見せてもらいました。子どもたちは、説明を聞きながら見学し、気づいたことを熱心に書き留めます。「一日にどれくらいの手紙がポストに届くのですか」など、準備してきた質問に加え、その場で生まれた疑問についても積極的に確かめる姿が印象的でした。

町を知り、町を好きに

今回の町探検で、目を輝かせていた子どもたちは、毎日通っている町の中に、多くの人の働く姿があることに気づいたのではないのでしょうか。116年の歴史を持つ理容室を見学し、その思いに触れた班もありました。こうした体験を通して、地域をより大切に思う気持ちが子どもたちの中に育まれていくことと思います。小沢校長は、「身近な町を知り、新たな発見を重ねながら、自分たちの地域をもっと好きになってほしい」と話していました。



地域とともに&楽しい学校づくり

令和8年度中北地区地域教育推進連絡協議会会長
昭和町教育委員会

柴 茂生 教育長

昭和町の4小中学校すべてに学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクール（CS）となって13年目になります。その間、学校を核とした地域づくりに取り組み、「地域とともにある学校づくり」を行ってきました。様々な経験を持つ地域人財やボランティアの協力により、学校では充実した教育活動を実践することができ、地域は子どもや学校と関わりを通じて地域活性化や人材育成につながっています。また、「ながら見守り」による登下校の見守りや中学生による地域防災活動への参加など、学校と地域がWin-Winの関係が作られている町です。子どもの成長が地域の喜びとなり、地域の支えが子どもの力となっている。これからも地域とともにある学校づくりを目指していききたいと思います。

また、今年度は新たな取り組みとして、「ゆるやかスタート（ゆるスタ）」&「わくわく給食ウィーク」を実施します。夏休みが終わり、2学期がスタートする始業式は気持ちが沈みがちになる児童生徒が多くいます。そこで、夏休み明けの始業式からの3日間を半日で下校する取り組みを実施します。また、スタートの1週間を児童生徒や教職員のリクエスト給食を提供し、わくわくしながら楽しい給食の時間が楽しい学校につながるように取り組んでいきます。昭和町では、保護者と地域、行政が一体となって児童生徒が楽しく学校生活が送れるようにこれからも取り組んでいきます。

Pickup!

学校応援団が学びを支える

～ 甲斐市立 双葉西小学校4年生の図工 ～

6月16日、双葉西小学校（志村 征俊 校長）4年生の図工の授業に、「学校応援団」として地域の方々が参加しました。学校応援団は、地域全体で子どもたちを見守り、育てていこうとする取組です。双葉西小学校は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取り組み」が評価され、令和6年度には文部科学省から表彰されるなど、日頃から地域や保護者とともに歩む教育活動を大切にしています。

この日の授業では、子どもたちが思い思いの作品づくりに取り組む中、応援団の皆さんが優しく声をかけながら、のこぎりの使い方を丁寧にサポートしました。初めてのこぎりを手にする子どもも多く、はじめは手つきがおぼつかない様子も見られましたが、応援団が使い方を教えたり、木材を支えたりしながら安全面をしっかりと支えてくれたことで、次第に自信をつけていきました。授業の後半には、のこぎりを上手に使いながら生き生きと作業に向き合う姿が見られました。

「安全が何より大事」と話す応援団の中には、15年にわたり活動が続けている方もいます。「子どもたちの頑張る姿や成長する姿から、たくさん元気をもらっています」と、活動への思いを話してくれました。授業の後には、「教えてもらえて、うまくできた」「来てくれてうれしかった」と、子どもたちから感謝の言葉が聞かれました。

地域の人々のあたたかな関わりが子どもたちの学びをより豊かなものにしています。これからも、学校と地域がつながりながら子どもたちの成長を見守る取り組みが続いていくことが期待されます。



紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。
学校や地域、諸団体での様々な取り組みを、ぜひ取材させてください。問い合わせは右記までお気軽にお声がけください。

令和8年度 『中北.com』 No. 2
編集・発行 中北教育事務所
担当 花形 健一・江川 みづほ
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
電話 0551-23-3046